

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市環境影響評価審査会		
事務局 (担当課)		ゼロカーボン推進課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 4 0 (直通)		
開催日時		令和 7 年 1 1 月 6 日 (木) 1 8 時 0 0 分 ~ 1 9 時 5 5 分		
開催場所		ソレイユさがみ セミナールーム 1		
出席者	委 員	8 人 (別紙のとおり)		
	その他	1 1 人 (事業者及び都市計画決定権者)		
	事務局	7 人 (環境部長、ゼロカーボン推進課長 他 5 人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		1 開会 2 議題 (1) 諮問 ・「(仮称) 麻溝台・新磯野北部地区土地区画整理事業」計画段階配慮書 ・「(仮称) 麻溝台・新磯野南部地区土地区画整理事業」計画段階配慮書		

議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。

(○は委員の発言、◆は事業者・都市計画決定権者の発言、●は事務局の発言)

開催に先立って、「(仮称) 麻溝台・新磯野北部地区土地区画整理事業」及び「(仮称) 麻溝台・新磯野南部地区土地区画整理事業」に係る計画段階配慮書について、本審査会への諮問が行われた。

1 開会

定足数の確認の上、開会した。

2 議題

片谷会長の進行により議事が進められた。

審査の順序について、事務局より提案があり、事務局による説明の後、「(仮称) 麻溝台・新磯野北部地区土地区画整理事業」に係る計画段階配慮書について、事業者による概要説明、審議を行い、次に「(仮称) 麻溝台・新磯野南部地区土地区画整理事業」に係る計画段階配慮書について、事業者による概要説明、審議を行うことで了承された。

まずは相模原市の環境影響評価制度及び審査対象案件の概要について、「資料1」、「参考資料」等を基に事務局より説明が行われた。

(1) (仮称) 麻溝台・新磯野北部地区土地区画整理事業に係る審議

事業者から「(仮称) 麻溝台・新磯野北部地区土地区画整理事業」に係る計画段階配慮書の概要が説明された。本事業については、「位置」、「規模」及び「配置・構造」について、適切な複数案を設定することが難しく、単一案での環境への配慮を検討することが説明された。

○(石井委員) 事務局の説明によると、都市計画の素案の作成がアセスの実施時になっているが、計画段階配慮書では、市街化調整区域から市街化区域に編入し、工業系の用途地域になることが記載されている。これは都市計画審議会ですべて了承されているということか。

◆(都市計画決定権者) 現時点では、都市計画審議会に諮ってはいない。現状では、線引き見直しにおける保留区域の設定があり、本地域は特定保留区域に位置付けられている。相模原市における市街化編入までの要件となっている人口フレーム並びに工業フレームには余裕があるため、工業系の土地利用で問題ない状況である。一方で、総合計画や都市計画マスタープランにおい

て、工業系の産業立地を目標に掲げているため、将来的な土地利用の案として事業者が提案しているものである。

○（石井委員）そうすると、この提案内容で都市計画審議会に諮ったとしても問題がでないと想定しているのか。

◆（都市計画決定権者）そのとおりである。

○（石井委員）工業系の用途地域だと、高さ制限がないなど環境に関して規制がかなり緩くなるが、アセスの段階で意見が出てきた際に、地区計画をかけることは検討されているか。

◆（都市計画決定権者）基本的に新市街地の市街化編入については、地区計画をマストとしているため、将来的な土地利用を含めた中での地区計画の案を作成し、市街化編入とともに地区計画をかけていくことになる。

○（石井委員）すでにそういう形で産業系の地区計画をかけたことはあるのか。

◆（都市計画決定権者）複数ある。過去の区画整理においても、基本的に市街化編入に当たって、地区計画をかけている。

○（石井委員）環境のために地区計画をかけた事例があれば教えてほしい。

◆（都市計画決定権者）次回までに回答する。

○（石井委員）用途地域について通常は環境の良いところから工業系へ段階的に進んでいくが、当該地区は大学や公園と工業系が背中合わせになっており、違和感がある。バッファーなどは検討しているのか。

◆（都市計画決定権者）将来的な利用に当たってはそういうところに配慮したバッファーは必要と考えているが、用途地域としてのバッファーは考えていない。一方で北部地区にはすでに市街化編入され、清掃工場等が位置している土地があり、工業系の用途地域が張られている状況である。そのため、隣接する区域が工業系の土地利用となっても問題はないと考えている。また北側、東側については、住宅街が広がっているが、4車線規格での都市計画道路が予定されていることから、影響は低いと認識している。

○（石井委員）清掃工場を作ったとき、煙突の高さなどについて景観は配慮されているか。

◆（都市計画決定権者）清掃工場自体がかなり古く、その時点では景観という考え方はなかったと考えられるため、配慮はされていないと認識している。

○（石井委員）もう一点について、遊歩道があるとの記載があるが、ストリートビューでは、見つけることができなかった。すでに整備済みなのか。

◆（都市計画決定権者）畑地、灌漑用水路となっているところであり、また緑道であるため、上から見ても分からない可能性がある。横浜水道道緑道はすでに整備されており、ジョギングコース等として利用されている。

○（石井委員）複数案は作りにくいとしている一方で、遊歩道に関しては土地利用で検討することとなっているが、どのように理解すればよいか。

◆（都市計画決定権者）基本的には、従前からあるものはそれを将来的にも活かしていくことが必要と考えている。また、横浜水道道緑道については、下に水道があり基本的には場所を変えようがない。さがみの仲よし小道は最適な場所に同様の機能を持たせて、土地利用されていく可能性がある则认为している

○（石井委員）それに関しては、方法書にて具体的な土地利用計画が出てくるということによいか。

◆（都市計画決定権者）土地利用計画図が提出されるように事業者に求めている。

●（環境部長）清掃工場に関して、建設当初の景観への配慮の話があったが、建替え後、平成22年から稼働している現在の南清掃工場について補足する。現工場の本体及び100メートルある煙突については、周りの木々とマッチするように外壁を青く、空っぽくするなど、周辺の景観へ配慮している。

○（青木委員）周辺の施設の状況を配慮書にてまとめているが、いくつか抜けている施設があると考えている。一つは陸上競技場であるギオンスタジアムである。収容人数は15,000人であり、この施設を把握しないと交通渋滞が検討できないと思われる。もう一つが、隣接している相模原沈殿池である。横浜水道の汚れを沈殿させる池であるため、工事の際に発生する粉じんにて汚染がないように配慮する必要があると考えている。これらの施設が配慮書に記載されていないのはなぜか。

◆（事業者）配慮書では、福祉関係等の施設など、特に配慮が必要な施設を選定して記載しており、陸上競技場は、これらの施設に該当しないことから、記載はしていなかった。今後、交通渋滞等を考慮していく上において、検討に加えていく。沈殿池についても検討に加えていく。

○（青木委員）神奈川県には神奈川県オオタカ保護指導指針がある。オオタカについては、当該指針に基づいて今後調査等を行っていくのか。

◆（事業者）その通りである。県の担当部署に相談をしていることに加え、過去から継続して調査が行われていることを把握しており、当該調査を引き継ぐ形で調査していく。

○（片谷会長）欠席委員からの意見はあるか。

●（事務局）欠席の白井委員より、北部地区、南部地区に共通した意見を承っている。

まず「地下水、湧水」への影響について、今回の配慮書で記載されている湧水以外に道保川の東の崖下や、北部地区の事業実施予定区域の近くに位置しているギオンスタジアムの西の崖下に湧水が存在する。さらに相模原公園せせらぎの園地区にも湧水がある可能性がある。

今回の事業実施予定区域に多く存在している畑地がアスファルトやコンクリートにより舗装されると、雨水などが地下浸透する量が減り、周辺の地下水や湧水への影響が懸念される。このため、事業の実施が地下水、湧水に及ぼす影響の有無及びその程度について、計画の熟度に応じて定量的な予測・評価を行った方が良いと考える。

次に、「地形・地質」についてだが、「地形・地質」に関する配慮事項の内容は配慮書第3章に記載されている内容で問題ないとする。その上で、以下の3点について意見させていただく。

1つ目として、北部地区の事業実施予定区域に存在している相模川相模原段丘群は、かつて小さな谷筋であったことが読み取れるため、現在埋め立てが行われており、地盤がやや軟弱である可能性がある。このため、工事前のボーリング調査等でこの部分の調査をした方が良いと考えるが、実際の工事に当たってどのような対応を予定しているか。

続いて、2つ目として、図 2.1-4 の相模川中流部について、「位置が特定できないため記載していない」とのことだが、「相模原市史 自然編」を参照すると、位置が特定できると思われる。相模川中流部は段丘地形となっているため、相模原面・田名原面・陽原面とそれらの間の崖地形となり、相模川沿いの低地以外の概ね相模線より東側が該当する。

最後に3つ目として、「相模原市史 自然編」を参照すると、ギオンスタジアムのすぐ西にある大正坂も指標テフラを観察できる露頭であり、「後世に伝えたい地学的な遺産」の一つとして取り上げられている。本工事による影響の有無等を予測するのであれば、事業実施予定区域の近くに位置している大正坂について検討した方が良いと考える。

○（片谷会長）今の白井委員の意見については、次回までに事業者が回答を行うものとする。

○（片谷会長）北部地区に関しての審議はここまでとする。

（2）（仮称）麻溝台・新磯野南部地区土地区画整理事業に係る審議

事業者から「（仮称）麻溝台・新磯野南部地区土地区画整理事業」に係る

計画段階配慮書の概要が説明された。本事業も北部地区と同様に、単一案での環境への配慮を検討することが説明された。

- （片谷会長）欠席委員からの意見は北部地区、南部地区共通となっているため、事業者は後日回答を行うこと。
- （澤田委員）地表水について、工事中の雨水については仮設の沈砂池を用意することになっている。昨今は線状降水帯などの影響で、過去の記録が当てにならない量の雨が降ることがある。そういったことを予測したうえで、仮設沈砂池及び工事完了後の雨水の調整池の規模を検討しているか。工事中の仮設沈砂池の規模は、想定外がないように過去のデータに加え、今後予測される雨量を踏まえた規模となっているか。（北部・南部共通意見）
- ◆（事業者）今後市と協議を行い、設計条件を決めていく。最近の豪雨などの影響により、排水計画について通常の計算式では出てこない状況であるため、市からの指導も受けながら、計画を検討していく。
- （朝日田委員）他の事業、特に県、市の事業で例えば県道 52 号の整備など、隣接する事業の影響も予測して配慮書は作成されているか。（北部・南部共通意見）
- ◆（事業者）計画段階の事業は考慮されていない。今後、隣接する事業を把握して検討を進めていく。
- （朝日田委員）県道整備は既に工事が始まっており、交通面等に影響が出ていると聞いている。本件は事業期間が長いことから、他事業による変化が予測される周辺環境等も考慮していただきたい。
- （片谷会長）近隣の事業の影響を反映させることは難しいが、予測に加えることが望ましい。市から情報提供を促すことはできるか。
- （事務局）近隣事業の累積的な状況をみるうえにおいて、可能な範囲の中で情報提供を促すことはあり得ると考えている。
- （荒井委員）発生土については、切土盛り土のバランスに配慮して、発生土量の最小化を図ることは承知した。一方、多くの樹木の伐採は想定されているか。伐採する場合は、規模はどの程度か。

多くの樹木を伐採する場合は少なからず廃棄物が発生するため、リサイクルすることを考える必要があるのではないか。樹木の伐採が土地の造成に関連して想定されているか。（北部、南部共通）
- ◆（事業者）対象事業実施予定区域は市街地など一度開発された土地が大部分を占めており、樹木は多くないと認識している。

○（荒井委員）他の開発では、市民にとって大事な樹木を伐採してしまい問題となった事例がある。そういった問題が起きないように配慮することが環境影響評価につながると考えている。多くの樹木の伐採を伴う事業であるのか、事業の特性を把握したい。

◆（事業者）対象事業実施予定区域は市街化が進んでいる地域であり、大きな森林はない。伐採する樹木は多くないと考えている。将来的な土地利用、建物利用する際には植栽等を植えるなどして、緑豊かなまちにしていこうとも検討しているため、今後具体的な土地利用計画を示していく。

○（片谷会長）南部地区に関しての質疑応答はここまでとする。審査会後に意見がある場合は、事務局まで連絡してほしい。

●（事務局）追加の意見や質問があれば、11月14日（金）までに事務局まで連絡してほしい。

以 上

相模原市環境影響評価審査会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	青木 雄司	青山学院大学 非常勤講師		出席
2	朝日田 卓	北里大学 海洋生命科学部 教授		出席
3	荒井 康裕	東京都立大学 都市環境学部 准教授		出席
4	石井 信行	山梨大学大学院 総合研究部 工学域 准教授		出席
5	片谷 教孝	桜美林大学 リベラルアーツ学群 教授	会長	出席
6	亀卦川 幸浩	明星大学 理工学部 教授		出席
7	齋藤 利晃	日本大学 理工学部 教授	副会長	出席
8	澤田 博司	日本大学 文理学部 教授		出席
9	白井 正明	東京都立大学 都市環境学部 准教授		欠席
10	鈴木 美緒	東海大学 建築都市学部 准教授		欠席
11	塚田 英晴	麻布大学 獣医学部 教授		欠席
12	松本 涼子	神奈川県立生命の星・地球博物館 主任学芸員		欠席
13	御法川 学	法政大学 理工学部 教授		欠席
14	横内 恵	亜細亜大学 法学部 准教授		欠席
15	吉田 圭一郎	東京都立大学 都市環境学部 教授		欠席